

2023年度 愛知県栄養士会 生涯教育基本研修会 第2回 研修内容

愛知県栄養士会の生涯教育研修会では、実践研究の手法を修得することを通して、管理栄養士・栄養士の専門業務の見直しを行って課題を発見し、その課題解決のために、エビデンスに基づく検討結果を踏まえて改善に取り組み、専門業務のレベルアップをめざすことを目的として実施します。本研修会で検討した内容は、実践報告会2023において発表します。

第2回の研修プログラムは下記の通りです。

【基調講演】(30分)

演題：データ解析方法

課題解決のためのデータの解析の必要性と的確な解析方法等に関する講演

講師：金城学院大学 北森一哉先生

【演習】(90分)

演習時間 90分の中で、(1)Excelを活用した例題の解答、(2)グループ別に取り上げた課題の検討を行う。

(1) Excelによる模擬演習(約75分)

演習課題：Excelによる模擬演習 ～統計解析に関する例題を解いてみよう～

*3題の練習問題を解く(約45分)。北森先生からの模範解答と質疑応答、統計処理に関する追加説明を行う(約30分)。

*既に課題に関する統計処理が済んでいる部会は、講師の先生方から、その内容についてアドバイスを受ける。

(2) 各部会で取り上げた課題に関する検討(約15分)

部会別の課題に関する進捗状況と今後の展開について検討する。

【全体的話し合い(振り返り)】(45分)

(1) 各部会からの検討内容の報告(演習内容に関する意見を含む)

現在進行中の内容と今後のすすめ方を発表する。意見やアドバイスを受ける。

(2) 全体での話し合いのテーマ

管理栄養士・栄養士の今後の一層の躍進をめざして、下記の項目の中から参加者がテーマを1つ選択して参加者全体での意見交流を行う。

①COVID-19後の新しい食生活の変化に対応した管理栄養士・栄養士に必要とされる専門業務とは何か? ～5年後の管理栄養士・栄養士の状況を見据えて～

②当研修会の実践的研究の取り組みが職場に活用されているか?あるいは、活用される可能性はあるか? 活用される可能性が無ければ、その妨げ要因を考える。

③他職種連携を進展させるために、管理栄養士・栄養士の専門業務について積極的に発信するためには、どのようなことが必要か?

- ④専門業務の遂行に今後必要とされる生成系 AI（ディープラーニング（深層学習）によって構築された大規模な機械学習モデルであり、既に ChatGPT（Chat Generative Pre-trained Transformer）、AI 画像作成、AI 動画作成等として活用されている）の習得は必要か？

管理栄養士が実践研究に取り組む意義と専門業務における役割

2022 年度生涯教育研修会 第 1 回 「実践研究における問題発見力を養うために必要なこと（先行研究論文の抄読法）」名古屋文理大学 後藤千穂先生の講演資料 5、7 ページ参照。

1. 実践研究の定義

- 実践現場の貴重でさまざまな情報（症例データ、各種集団データ等）に基づいた研究
- 実践に役立つ知見（見聞、観察、考察して知り得たこと）を明らかにする研究

実践的研究に関する参考文献

- * 「『栄養』教育から『食行動』教育へ～体重管理における誘惑場面の対策に関する基礎と実践的研究～」赤松利恵、行動医学研究、Vol.21、No.2、63-68、2015
- * 「職域における栄養教育と食環境介入に関する実践的研究」入山八江、栄養学雑誌、Vol.72、No.6、261-291、2014

2. 実践研究の分類

- 実証研究：自然科学的な手法を活用して、自分が興味を持っているテーマについて、ある仮説（予測）を立て、それを検証し、当初の仮説に対する答えを得ることを目的とした研究
- 事例研究：自分が興味を持っているテーマについて、先行研究の行動科学の理論等に基づいた実践を行い、それを検証し、テーマに対する仮説を得ることを目的とした研究

3. 実践研究を行う意義

- 「個別的・特殊な事例」を拾い上げることができる
- 実践現場にいるからこそ、実践研究のデータが収集できる
- 実践研究の成果は、実践現場に直接的に影響を与える可能性が大きく、現場の業務改善に役立てることができる。

4. 実践現場に身を置く管理栄養士・栄養士はどうすれば実践研究を行うことができるのか？

- 理論に基づく仮説の設定⇒実践⇒仮説の検証⇒考察⇒結論⇒実践研究結果の公表という PDCA サイクルは、管理栄養士・栄養士の実践現場において通常行われていることであり、日々の業務のデータの蓄積を行うことが基本となる。
- 教育実践研究では、基礎研究で得られた成果（調査法（食事調査法等）、教育・心理の諸モデル（行動変容段階モデル、KAP モデル等）に基づいて実践活動を行い、その結果の検討が実践研究には必要となる。
- 実践現場の記録を、取り組むべき課題といった特定の観点からまとめると「事例報告」となり、他の事例にも共通するような普遍性などを見出すことができれば「事例研究」となる